一年生　言語文化　　（　　）組（　　）番　氏名（　　）

p２６～　伊勢物語　「芥川」　家庭学習プリント②　単語の意味調べ

昔、男ありけり。女の①え得まじかりけるを、年を経て②よばひ③わたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ河を④率て行きければ、草の上にA置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らBで、神Cさへいと⑤いみじう鳴り、雨も⑥いたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡籙を負ひて戸口にDをり。はや夜も明けEなむと思ひつつ⑦ゐたりけるに、鬼、はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴るさわぎに、え聞かざりけり。Fやうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。足ずりをして泣けども、Gかひなし。

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを

問　本文中の傍線部①～⑦及び二重傍線部A～Gの単語について、次の問いに答えよ。

（1）傍線部①～⑦は単語帳に掲載されている単語である。それらの単語の意味を調べよ。

（単語帳で調べる場合、記入するものは赤字のみで良い）

	単語	品詞	頁（ページ）	意味
①	え～打消	副詞		
②	よばふ	動詞	p.33下	
③	～わたる	補助動詞		
④	率る（ゐる）	動詞		
⑤	いみじ	形容詞		
⑥	いたし	形容詞		
⑦	ゐる（居る）	動詞		

（2）二重傍線部A～Gは古文読解に必須の単語である。古語辞典等を用いて意味を調べよ。

	単語	品詞	意味
A	置く	動詞	
B	で	接続助詞	
C	さへ	副助詞	
D	をり	動詞	
E	なむ	終助詞	
F	やうやう	副詞	
G	かひなし	形容詞	